

# 友の会 NEWS

The National Museum of Modern Art, Kyoto  
京都国立近代美術館



December 2010 No.16

## 展覧会のご案内

本年は、「稲垣仲静・稔次郎兄弟展」にはじまって『日本画』の前衛、そして「上村松園展」まで、「日本画」の多彩な表現を紹介する展覧会が続きました。来年は、年明け早々の「麻生三郎展」、そして「パウル・クレー展」をはさんで「没後100年 青木繁展」と、近現代の「洋画」作品をじっくりと鑑賞いただく機会となります。

### 麻生三郎展

麻生三郎（1913-2000）については、「青木繁」とともに、関西ではじめての大規模な回顧展の開催であり、まさに決定版というべき内容となっています。麻生といえば、まず初期のスープを呑むその姿も印象的な《男》（1940年 茨城県近代美術館蔵）の作品がよく知られています。そして戦時期から戦後にかけて、繰り返し描かれた妻や子供の家族の肖像、さらに戦後、執拗に描き続けた「赤い空」の連作は、油絵表現のひとつの極致を示すものであり、たんに「暗さ」や「重苦しさ」といった表現だけではなく、「絵画そのものが描かれている」といっても過言ではありません。

わが国の近代「洋画」の歩みは、たとえば高橋由一にはじまって、黒田清輝や浅井忠、青木繁、岸田劉生といった画家たちが追求したひとつの「道」があります。けれども、たんに「洋画」という言葉ではなく、あらためてその原点というべき「絵画表現」についても思いをめぐらしたいものです。まさに麻生三郎の作品は、わたしたちに油彩という手段を用いて描かれた「絵画」そのものの表現を指し示しているのではないのでしょうか。

関西では、あまりその名は知られてはいませんが、ぜひこの機会に麻生の「絵画芸術」のすべてをご堪能ください。



《男》1940年  
茨城県近代美術館蔵

#### ◆「麻生三郎展」友の会特別解説会◆

会員の皆様のために、閉館後、本展覧会の特別解説会を開催します。

日時：1月15日（土）午後4時～6時

（午後3時50分に一階インフォメーションにて集合）

定員：10名（先着順）

解説者：山野英嗣（当館学芸課長・本展覧会担当者）

※申込方法

申し込み先：京都国立近代美術館事業係

電話：075-761-1445

（月曜から金曜まで午前10時～午後5時）

※お申し込みの際は、お名前・会員番号をおっしゃってください。

#### ◆講演会◆

「麻生三郎の生活と作品」野見山暁治氏（画家）

日時：2011年1月22日（土）午後2時～3時半

定員：100名（聴講無料）

※当日、午前11時から受付にて整理券を配布します。

会期：2011年1月5日（水）～2月20日（日）

開館時間：午前9時30分～午後5時

（入館は午後4時30分まで）

休館日：月曜日（ただし1月10日〔月・祝〕は開館、

1月11日〔火〕は休館）

#### ◆「没後100年 青木繁展」の開催にあたり、

青木繁ゆかりの地をめぐるツアーを計画しています。

青木繁の命日3月25日に、青木の生地・久留米の石橋美術館で開幕する今回の記念展。ふるさと久留米には青木の旧居が現存し、命日の前後（来年は3月27日の日曜日）には青木繁の墓があるけしけし山でお祭りも催されます。京都よりも早く石橋美術館で展覧会も鑑賞もちろん担当者の解説で、お祭りも参加して、青木繁ゆかりの地をめぐる予定です。詳細は次号にてお伝えします。

石橋美術館（久留米）2011年3月25日（金）～5月15日（日）

京都国立近代美術館（京都）2011年5月27日（金）～7月10日（日）

ブリヂストン美術館（東京）2011年7月17日（日）～9月4日（日）



青木繁展

青木繁展チラシ

● 第61回 造形表現・図画工作・美術教育全国大会 京都大会

公開授業（美術観賞）『みて 感じて 楽しんで（みて かんじて たのしんで）』

日時：10月30日（土）午前9時～午後12時  
会場：京都国立近代美術館 4階常設展会場・一階講堂・ロビー  
参加人数：小学校低学年49名、高学年34名、  
鑑賞会進行：低学年 六原小学校教諭・池田芳子  
高学年 当館学芸課長・山野英嗣



常設展会場での鑑賞の様子

当館では毎年、六原小学校と連携して、企画展や常設展会場での鑑賞を行ってきました。今年度は、美術教育研究の全国大会が京都で行われることもあり、公開授業という形で、全国の図画工作教諭、研究者、そして保護者の方々にその鑑賞の様子をご覧いただきました。低学年と高学年の二つのグループに分かれて、ヨハネス・イッテンの《幸福の島国》と、藤田嗣治の《メキシコに於けるマドレーヌ》の二つの作品を交互に鑑賞しました。鑑賞後には一階講堂で、「きみもイッテンになろう!」と題した制作活動が始まりました。イッテンが《幸福の島国》の作品の中で日本の京都を表現したように、児童のみんなは六原小学校のイメージを色とりどりの色紙で表現しました。来年度から小学校の統合に伴って廃校となる六原小学校ですが、6年もの間当館との連携を保ち、たくさんの子ども達が美術とふれあえたことを喜ばしく感じております。

● 友の会会員限定、上村松園展の解説会を開きました！

日時：11月11日（木）午後5時30分～午後6時30分  
参加者：5名  
解説者：小倉実子（当館主任研究員）

当館では、展覧会毎に友の会会員の皆様限定で、学芸員による解説会を開いております。今回は、現在開催中の「上村松園展」の解説会。通常混雑を避けられない松園展ですが、5名の参加者は、閉館後の静かな会場を独占して堪能されました。



解説会の様子

● その他、松園展関連イベント参加者のご感想

特別文化講座「序の舞について お話と実演」に参加して。

日時：11月6日（土）午前11時～午後12時半  
会場：金剛能楽堂

まず、松園先生と金剛家の関わりや《序の舞》についてお話を聞いたあと、「野宮」の序の舞を実演してくださいました。《序の舞》に描かれた女性の顔は松篁先生の奥様がモデルですが、姿は能楽師のご家族の方も参考にされたので、とても姿勢がよいとおっしゃっていました。能面を表情に取り入れた作品については、《花がたみ》の参考にもなった増阿弥作「十寸髪」など、実際に面をみせながら説明してくださいました。その他にも、松園先生が金剛能楽堂の最前列でいつもスケッチをしていたエピソードなど、金剛家との深い関わりを知る興味深いお話を聞くことができました。

（友の会会員Oさん）

NFC 所蔵作品選集  
MoMAK Films @ Home 東欧映画



「出発」

日時：12月4日（土）・5日（日）14時～  
作品：12月4日（土）

①14：00～15：32

「ハンニバル教授」

（ゾルタン・ファーフリ監督、1956年、ハンガリー）

古代ローマ帝国に反旗を翻したハンニバルを熱心に研究する教授が、ファシストたちには反対勢力と映ってしまい、厳しい状況に置かれる。本作は、東欧最大と言われる映画の祭典カルロヴィ・ヴァリ国際映画祭でグランプリを受賞した。

②15：55～17：28

「メリー・ゴー・ラウンド」

（ゾルタン・ファーフリ監督、1956年、ハンガリー）

12月5日（日）

③14：00～15：38

「エヴァは眠りたい」

（タデウシュ・フミエレフスキ監督、1957年、ポーランド）

④15：55～17：24

「出発」

（イェジー・スコリモフスキ監督、1967年、ベルギー）

会場：京都国立近代美術館1階講堂

料金：1プログラム500円

主催：京都国立近代美術館

東京国立近代美術館フィルムセンター